

劍舞の歌

ほきまつる

けふのうたけの

嬉しさよ

君はしろかね

臣はくろかね

朽はてゝ

老のこの身は

なにあせん

こゝろのかねう

きみよむくいん

胤 永

文 苑

鶯花契萬春

下山 陸治

むつれつゝいく代の春かちさるらん

千代田の花にやどる鶯

鶯花契萬春 二首

杉山 富樫

色ふかき花のこすえにきよゆなり

萬代うたふ鶯の聲

萬代のちきりをこめて花の香に

鳴く鶯のこゑうのどけき

大婚滿二十五年祝典を

ほきまつる 二首

全

山賤の身にしあれども大君の

深きめくみをいはひたゝえん

治れる御代のめくみの昔より

たぐひまれなる榮をう見る

霞

全

風さえてまた雪どけぬはつ春の

霞むもさむし野つら山きは

庭 梅

全

のさちろくすうたはるれとおほる夜の

吹きくる風の梅か香そする

若 草

全

春雨にもえいてし庭の芝くさは

池の鏡にみどりゝねけり

瓶の梅ささめければ

よめる

全

さしかさす梅の一枝咲きそめて

春きにけりとえられこそすれ

馴鶯

視友會員 受樂院義春

我やとは梅のはち園ちかければ

さかぬ日もなき鶯のころゑ

朝雲雀

全

朝ほらけ雲はるかにさくひはり

有明の月にこそ霞みつゝ

海邊花

全

またつみの浪の春風ををるあり

雜報

○叙位

永井書記は今般正八位に叙せらる

○大典奉祝彙報

嗚呼是れ千載の一遇、未曾有の大典、高嶺の鶴、水際の龜、いづれか今日の喜

ふ躍らざる、此の盛典を祝する、亦未曾有盛事あかるべからず、大婚式當日に於ける龍南の盛況大概  
左の如き先づ

花

磯邊の櫻さかりあるらむ

全

敷嶋の大和ころを色にいてゝ

さくや吉野のやまさくら花

春川

全

ちりてなかるゝ櫻はあ

淀む水きはにしからみて

しろたへなせる隅田川

浪間の風もかをるあり

霞中花

全

はるの夕のよし野やま

いまをさかりと櫻はあ

かすみの中に咲きたれ

ねほろの月にはふあり